資料8

「養老孟司は何故、現代に“参勤交代”を唱えるのか」

養老はいくつもの著作で、「参勤交代論」を提唱しています。日本人について今一番心配している“鬱”についても、この『参勤交代』がひとつの解決法となるのではないかと考えています。

都市と田舎の往復居住。養老は「現代の“参勤交代”」と称していますが、お役人言葉で言うと「二地域居住」というらしい。その「二地域居住」には、次のような効果や目的があると考えています。

１．来たるべき大地震期に備えて災害時の避難地を作っておく。そのためには、田舎に、「第二の親類のような関係」も作っておくと良い。

２．「クラインガルテン」（ドイツ）、「ダーチャ」（ロシア）、「アロットメントガーデン」（イギリス）などのような「市民農園」を政府や地方自治体が田舎に作り、そこへ都市生活者を週末に向かわせることによって、次の効果が期待できる。

①「身体」を動かすことによって、精神の「健康」を取り戻せ、鬱を解消する。

②「石油」が枯渇した時には「流通」が止まる可能性があるが、田舎の「第二の家」で農地を耕す訓練をしておくことによって、「食料自給」の手法を確立できる。

３．田舎に、その地域の材で「木の家」を作ることで、地域材の使用、その他の「木材サプライチェーンマネージメント」に貢献できる。

４．さらに、その木の家に、「耐震」、「断熱」の機能を持たせることによって、既に住んでいる都会の「第一の家」の方にも「耐震」、「断熱」機能を持たせておくことが必要であることに“気づき”を与えることができる。

５．フランスが「１２２％」もの総合食料自給率を持ち得ているのは、１９７０年代に都市居住者を田舎に向かわせる政策が国や地方自治体によって集中してとられたからである。その意味で、日本政府の「高速道路無料化論」は、正当な意義付けをして国民に、こういった副効果があることも納得してもらうことが良い。因みに、我が国の総合食料自給率は３９％だが、カナダは１４５％。アメリカは１２８％。穀物自給率は、我が国は２７％、フランスは１７３％。1960 年の我が国では８２％もあった。